



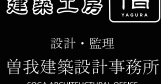
NILZZ

RACING FACTORY

FUJIMAKI GROUP FUJI GT 100LAP RACE

2022 AUTOBACS SUPER GT ROUND.4 RACE REPORT

カテゴリー	: SUPER GT SERIES 2022 GT300 クラス	公式練習	: 1'39.618 (GT300 クラス 25位)
エントラント	: NILZZ Racing	公式予選 Q1	: 1'38.615 (GT300 クラス B 組 10位)
カーナンバー	: 48	公式予選 Q2	: ----
マシン名称	: 植毛ケーブズフロンティア GT-R	決勝	: GT300 クラス 19位 (88周)
ドライバー	: 井田太陽 / 田中優暉 / 甲野将哉		
開催地	: 富士スピードウェイ (静岡県)		
開催日	: 2022.8.6~2022.8.7		
天候	: 曇り (8.6) 曇り / 晴れ (8.7)		
イベント動員数	: 18,600人 (8.6) / 29,300人 (8.7)		





8月5日から6日にかけて、「SUPER GT 第4戦” FUJIMAKI GROUP FUJI GT 100LAP RACE” が静岡県富士スピードウェイで開催。今回は第2戦同様、2回の燃料補給のためのピットストップが義務付けられている。義務ピットストップのタイミングがチームごとの戦略によって様々となることが想定される。真夏の富士を舞台に、約2ヶ月ぶりとなる100周の戦いが幕を開けた。第3ドライバーの起用が認められる今回のレース。NILZZ Racing はレギュラードライバーの井田太陽、田中優暉に加えて、第3ドライバーにルーキーの甲野将哉を起用した。

8月6日(土) 公式練習

深い霧に包まれた富士スピードウェイ。

公式練習の前に予定されていたFIA F4の予選がキャンセルされ、コンディションに不安視されたが、徐々に天候は回復。曇り空の下、予定通り9時より公式練習が行われた。

NILZZ Racing はまず第2戦以来のドライブとなる田中がステアリングを握りコースイン。

第3戦鈴鹿から約2ヶ月のインターバルがあったため、マシンチェックを兼ねて周回を重ねる。

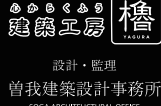
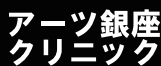
その後、井田～甲野と交代して順調に周回。走行プログラムを消化していく。

終盤、GT300クラス専有走行の時間を利用して予選シミュレーションを実施。

飯田が1分39秒618を記録して、公式練習はGT300クラス25位で終了した。

公式練習後のフルコースイエロー (FCY) 訓練は甲野が、3年ぶりの実施となったサーキットサファリでは田中が走行。

予選～決勝に向けて入念に準備を行った。





8月6日(土) 公式予選

15時から行われた公式予選。

今回もGT300クラスは2グループに分けてQ1セッションが行われた。

Bグループに振り分けられたNILZZ Racingは井田が予選アタッカーを務めた。

15時18分、Bグループの予選Q1が開始。

わずか10分間の限られた時間で井田はまずウォームアップを行う。

井田は1分38秒615をマークするも、Bグループ10位でQ2進出は叶わず。

予選が全て終了した結果、NILZZ Racingは予選20位となり、今季の予選ベストリザルトを更新した。

8月7日(日) 決勝

決勝コースイン直前に雨が降り、コースを濡らす。雨は直ぐに止んだが、路面はハーフウェットとなってしまう。

コンディションは回復傾向にあったため、NILZZ Racingはスリックタイヤを装着してグリッドに向かった。

その後、コース上は強い日差しが照りつけ、パレードラップが開始される頃にはかなり路面が乾いてきた。

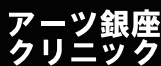
しかしコース上はまだ濡れた箇所が残っていたため、フォーメーションラップは1周追加。

これにより決勝レースは1周減の99周で争われることとなった。

NILZZ Racingのスタートドライバーは田中。

田中はスタート後、安定したラップを刻み、30周を走行。

14位までポジションアップを果たしたところで1回目の義務ピットインを消化する。



次のステントを担当したのは井田。

22位で復帰した井田も30周を周回。計60周を終えたところで2回目のピットイン。

給油の義務回数をクリアし、甲野へと交代した。

レースに復帰した甲野。初のSUPER GT決勝レースとなった甲野は確実にチェッカーへ向けてマシンを進め、計88周を終えた時点でフィニッシュ。

NILZZ RacingはGT300クラス19位で完走。

今期決勝ベストリザルトを更新した。

非常に暑いコンディションで迎えたレースウィーク。

過酷なコンディションの中でも安定して走行を重ね、予選、決勝ともに今期ベストリザルトを更新できました。

次戦鈴鹿大会も今回同様、450kmのレースとなります。

富士大会以上に過酷なレースになると予想されますが、より好成績を残せるよう、チーム一丸となって頑張るつもりです。

引き続き皆様のご声援、ご支援を賜りますよう、宜しくお願いいたします。

